

共焦点レーザー顕微鏡のご案内

共焦点レーザー走査型顕微鏡FV3000を展示します。

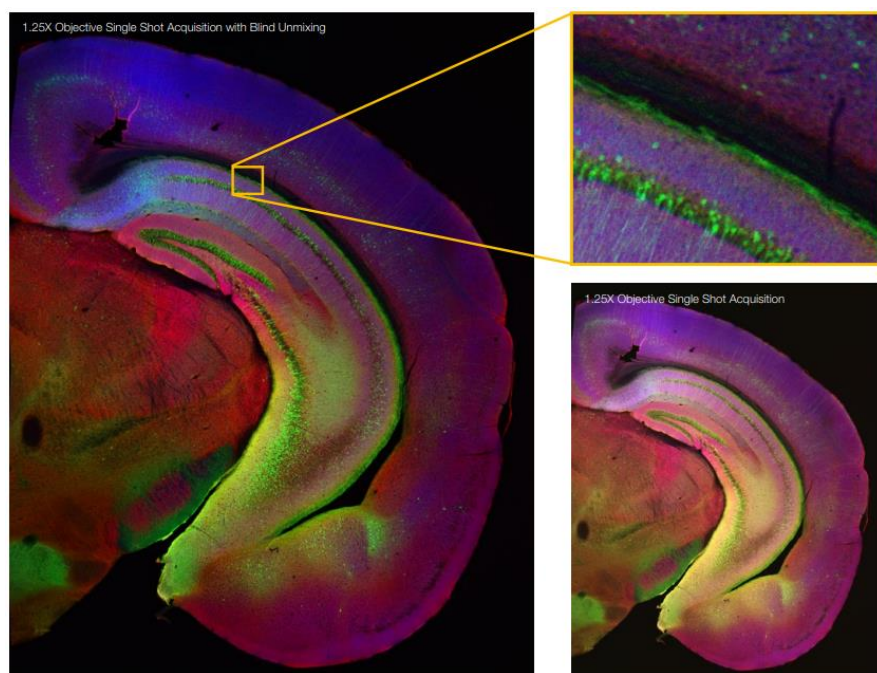
場所：8号館南3階 314実験室

期間：2022年12月13日(火)～16日(金) 10:00-17:00

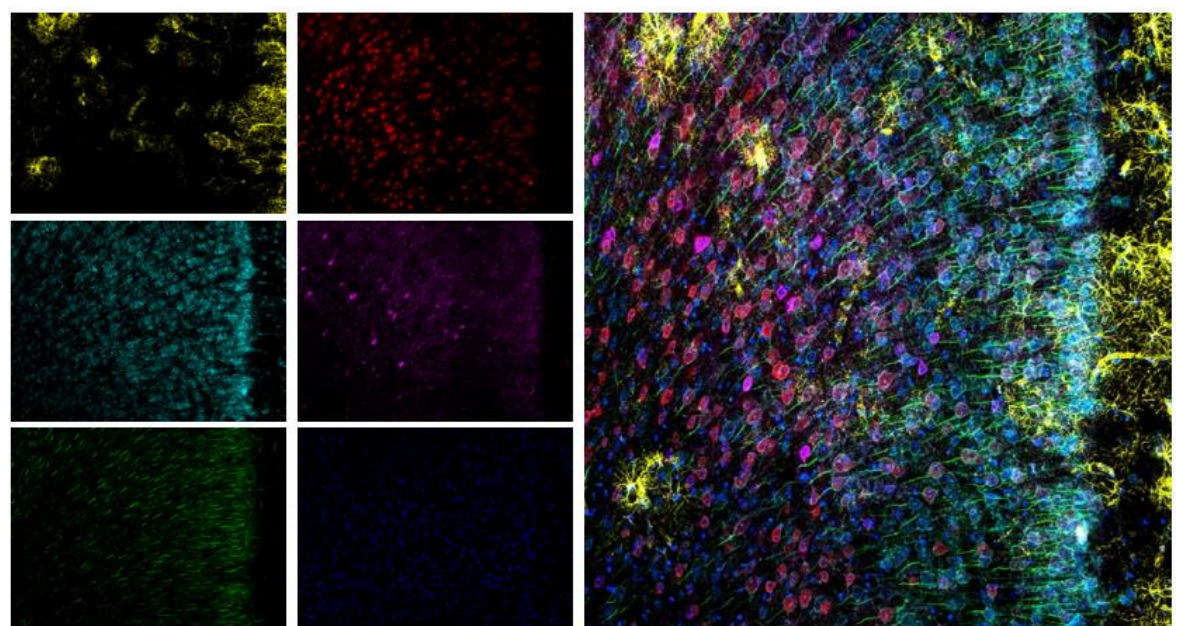
*16日のみ15:00までとなります。

サンプルをお持ちいただければ、デモンストレーションも可能です。ご参加希望の方は、お名前とラボ名を添えて下記のまでお問い合わせください。

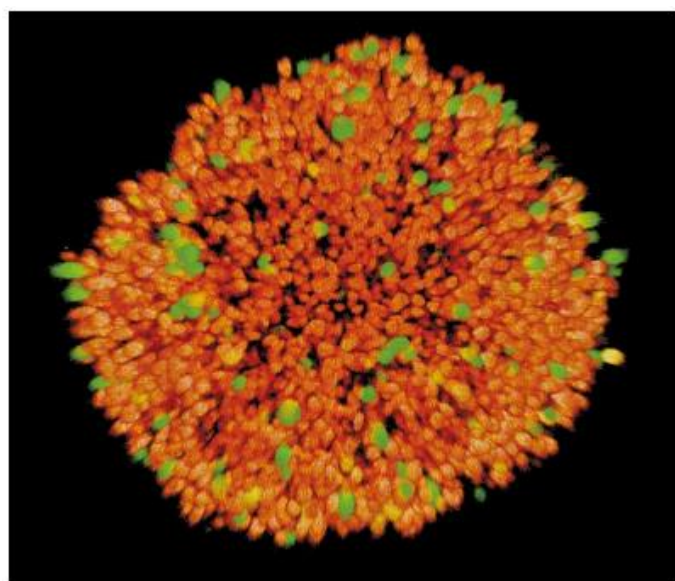
株式会社エビデント 播磨屋亨 : ryo.harimaya@evidentscientific.com



エクステンション顕微鏡法用に包埋されたマウス脳の片断切片(エクステンション前)。
二次抗体標識: GFP (Alexa Fluor 488, 緑), SV2 (Alexa Fluor 568, 赤), Homer (Alexa Fluor 647, 青)
標本作製、画像の取得・提供にご協力いただきました先生:
Dr. Ed Boyden and Dr. Fei Chen, MIT



グリア線維性タンパク質 (GFA; アストロサイトマーカー; 黄), カルモジュリン依存性タンパクキナーゼ II (CaMKII; 錐体細胞マーカー; 赤), アンホテリン誘導タンパク質 1 前駆体 (AMIGO-1; ニューロン細胞膜マーカー; シアン), パルプアルブミン (PV; 抑制性ニューロンマーカー; 紫), アンキリン G (AnkG; 軸索起始部マーカー; 緑), nuclear yellow (細胞核マーカー; 青)。標本作製、画像の取得・提供にご協力いただきました先生: Stephanie Shiers, Ph.D. Candidate, and Theodore J. Price, Ph.D., Price Lab, Eugene McDermott Professor, Director, Center for Advanced Pain Studies, Department of Neurobiology, School of Behavioral and Brain Sciences, University of Texas at Dallas.



Fucci2を発現したNMuMG細胞のスフェロイド画像
標本作製、画像の取得・提供にご協力いただきました先生:
理化学研究所 脳神経科学研究センター 細胞機能探索技術研究チーム 高橋敦史先生



装置概要

高次元の観えるを実現するFLUOVIEW FV3000シリーズは、高感度や高速撮像を必要とする生きた細胞・組織のイメージングや2D-6Dイメージング、マイクロプレートを用いたスクリーニング、さらにはAI画像解析に至るまでの最適なワークフローを提供します。従来機に比べ、より微弱な蛍光を、より高解像度で、より速く、より正確に、より広い範囲で。低倍から超解像まで、あらゆる撮影に対応できる共焦点顕微鏡となっております。

担当者おすすめポイント

- ✓ 明るい! TruSpectral(透過型回折格子)とGaAsP検出器にて分光、低褪色イメージング!
- ✓ 広い! 対物レンズ1.25xで広い視野をワンショット撮影!
- ✓ 精確! X Line高性能対物レンズで、画像周辺までフラットで明るく撮影可能!
- ✓ 深い! シリコンオイル浸対物レンズで、組織や細胞塊の深部構造を撮影可能!